

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）お見舞い申し上げます。

昨年暮れの武漢で発症したCOVID-19があれよあれよと言う間に南極大陸を除く全世界に感染が広がってしまった。猛威は終息する気配を見せず、どんどん拡大しています。そんな中見えてくるのは、やはりと言うか、悲しいというか、人の醜さです。マスク等が品薄なのを良いことに、転売で儲けようとする輩。マスクを巡って喧嘩をするなど、売り切れていることに腹を立てて店員に文句を言う輩。こうすればウイルスを除去できますよというデマを流す輩。うんざりする人の醜さです。が、醜さだけでもありません。自分も手に入れられなくて困っているはずなのに、マスクがないと困っている人に、手持ちから差し出す人もいます。自分の身を危険に晒しても看病する医療関係者もいます。大量のマスクを寄付する人もいます。募金活動に勤しむ人もいます。人は基本的に悪と善の両面から成り立っており、すべてが悪でもすべてが善でもありません。両方が混在しているのです。そして、善悪に小さいも大きいもありません。ただ、自然には善悪の意思はありませんので、人はそれを自分の意思で選ぶことができるのです。その結果がその人の人生です。

2月25日の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」では、「イベント等の開催について、現時点で全国一律の自粛要請を行うものではない」とし、「学校等の臨時休業等の適切な実施」については「今後」の検討課題とされていたのが、27日にいきなり、「全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、来週3月2日から春休みまで、臨時休業を行うよう要請します。」と、総理が表明。日本中がパニックになり、慌てた安倍総理は翌日、「各学校や地域で柔軟に判断いただきたい」と、全国一律の方針を翻し、まさに朝令暮改を絵に描いたようなグダグダぶりで、右往左往しています。日本政府の混乱を受け、諸外国は続々と「日本からの外国人の入国禁止」措置に踏み切っています。「災害に時なし、場所なし、予告なし」これは、寺田寅彦の名言です。なぜこんなことになってしまったのか？元を辿れば中国に気を使って、中国湖北省に限り実施してきた入国拒否の措置を感染が広がっている浙江省にも拡大することや、その手続きを簡素化することなどを表明したが、外務省は中国全土について「レベル4：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）」の退避勧告を出すべきです。ところが、未だに湖北省がレベル3（渡航中止勧告）で、その他の地域はレベル2（不要不急の渡航は止めてください）。中国「様」に媚を売る日本政府のおかげで、日本国民が危険にさらされる状況が続いています。1月末時点での入国禁止措置を決断しなかった結果、事態は最悪の方向に向かって突っ走っています。問題が起きた初期段階で決定的に対処を誤ると、その後の挽回は不可能という、企業経営においてはよくある事態です。この機会に危機管理をあらゆる組織に要請する必要があります。このような状態が続けば、オリンピックの開催は不可能でしょう。今までの努力は何だったんでしょうか？中止を前提にして、新たな世界が実現出来るぞとの見方でもって対応策を考えていきましょう。

コロナの影響により、全ての確定申告の期限が1ヶ月延長になり、4月16日が申告期限となります。免疫力をつけてゆったりと対応していきましょう。